



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北10条西16丁目商業施設 新築工事	階数	地上2階
建設地	札幌市中央区北10条西16丁目1番2	構造	S造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	200 人
建物用途	物販店	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
竣工年	2020年3月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	7,697 m ²	評価の実施日	2019年11月20日
建築面積	5,904 m ²	作成者	
延床面積	5,805 m ²	確認日	2019年11月22日
		確認者	

「配慮シート」に
外観パースを張り付けて下さい。

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★ A

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

項目	削減率
①参照値	100%
②建築物の取組み	61%
③上記②以外のオンサイト手法	61%
④上記③オフサイト手法	61%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEE][BEIm]= 0.55

2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項	
総合 桑園駅側の道路から建物を後退させ圧迫感の減を考慮した。	A 省エネルギー 建物は矩形を意識し省エネルギーに努めた。
B 省資源等 使用する建材は一般普及品を使用し、省資源に努めた。	C 緑化 札幌市で定める緑化率以上の緑化をする。
	D 雪処理 駐車場の雪は随時搬出する。

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)
(仮称)北10条西16丁目商業施設 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								3.1
1 音環境		3.0	0.15					3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40					
1.2 遮音		3.0	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	1.00					
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		3.0	0.20					
2 温熱環境		3.0	0.35					3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50					
1 室温		3.0	0.50					
2 外皮性能	省エネ	3.0	0.17					
3 ゾーン別制御性		3.0	0.33					
2.2 湿度制御		3.0	0.20					
2.3 空調方式		3.0	0.30					
3 光・視環境		3.0	0.25					3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50					
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備	省エネ	3.0	1.00					
3.2 グレア対策								
1 昼光制御	省エネ							
2 映り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御		3.0	0.50					
4 空気質環境		3.6	0.25					3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.50					
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆建材の採用	4.0	1.00		
4.2 換気		3.5	0.30					
1 換気量		3.0	0.50					
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮				給気口と換気口の隔離は6m以上	4.0	0.50		
4.3 運用管理		3.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50					
2 喫煙の制御				全館禁煙	5.0	0.50		

Q2 サービス性能			0.30	-	-	3.4	
1 機能性			3.6	0.40	-	-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	-	-	
1	広さ・収納性			-	-	-	
2	高度情報通信設備対応			-	-	-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			3.6	0.30	-	-	
1	広さ感・景観 (天井高)	休憩室等の天井高さは2500とした	5.0	0.33	-	-	
2	リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3	内装計画		3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理			4.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計	維持管理に適した計画を提案	4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保	維持管理機能に配慮した設計	5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.6	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源 金属サイディング 40年	5.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 カーペット、クロス 20年	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			3.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	変風量方式による不可対応を行っている	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性				3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり				4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		階高5.85m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		緑化		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ	BPIM=0.88	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネ	[BEI][BEIm] = 0.55 -	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ			-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		省資源		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		省資源	ビニール系床シート	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		省資源	点検口等により、設備改修しやすい設計	5.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				2.5	0.20	-	-	2.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.3	0.70	-	-	
1	消火剤	省資源		2.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒	省資源		2.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		省資源	ライフサイクルCO2削減量の低下に努めた設計	4.5	0.33	-	-	4.5
2 地域環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止		省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 熱化 蓄熱処理		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		札幌市の車附置義務条例を満たして、駐車場を確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	適切なゴミ置き場の確保	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	0.33	-	-	
2	振動			3.0	0.33	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.7	BEEランク	A
建物名称	(仮称)北10条西16丁目商業施設 新築工事				
建物用途	物販店				
延床面積	5,804.7 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★☆☆☆	
	雪処理	★★★★☆	
		<p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 7.2)				合計	19.5点 /23.1点
Q1 温熱環境	スコア	0.4 /0.6	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.5 /2.5	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0
B 省資源等 (最高点 23.6 最低点 7.6)				合計	16.3点 /23.6点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.8 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.3 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.0 /1.8
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.5 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.8 /4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)				合計	7.8点 /15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.8 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計	1.0点 /3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数